

仙台より12（3月23日10：57）

各位

A 日本産科婦人科学会宮城地方部会員の被災状況

現時点で学会員は全員無事のようです。

- ・気仙沼で開業産婦人科医が2施設、壊滅。

お一人は避難所生活とのことで、本日、私自身、気仙沼に入り、お会いしてきます。

- ・石巻は開業産婦人科医が7施設、被災。

5施設は壊滅。お一人は避難所生活でしたが、昨日、こちらからバンを出してご家族ともども仙台に移っていただきました。

- ・塩釜・多賀城は2施設が1階部分浸水。

しかし、一施設はすでに分娩も再開。もう一施設は数カ月再開の目途立たず。

- ・岩沼・名取地区はスズキ記念病院（鈴木雅洲名誉会長が理事長）が被災。

しかし、1週間程度で分娩再開。

B 学会としての追加対応策のご提案

- 1) まずは、1か月以上、業務をできないような施設・会員の把握が必要と思われます。
- 2) かなりの先生が分娩をやめる、あるいは産婦人科をやめる可能性があります。そういった先生方の相談に乗ったり再就職先を親身になって考える”誰か”が必要です。
- 3) 避難所生活あるいは被災地外の地域に避難している先生が大勢いると思われます。そういった先生と連絡を取り、今後のことを考える必要があります。
- 4) 学会や医会として義捐金を募り、例えばですが「1か月以上業務ができない施設に贈る」という形が有効かもしれません。

東北大学

x x x x

仙台より13（3月23日11：13）

順天堂大学 x x 先生

日産婦災害対策本部御中

岩手への人的支援の件、昨日、x x 教授と電話で話しました。

岩手はこれ以上のご支援を必要としないところまで回復したようです。

宮城県の場合、だいぶ事情が違います。

すでに石巻に1チームを派遣していただいておりますが、気仙沼のほうも人手不足です。

気仙沼に2件あった開業医が壊滅したので、気仙沼市立病院に仙台から産婦人科医を補充しています。

もし可能でしたら、岩手に派遣している順天の第1組の後の順天大学第2組（および後続の日産婦チーム）を気仙沼に行っていただくことはできないでしょうか。

東北大学病院に来ていただければ、気仙沼までの足は確保します。

これから私自身が気仙沼に出向いて現状を見てきますが、これまでの報告では上記支

援をいただけるとたいへんありがたいと考えております。

まとめますと、宮城県からの日産婦へのご依頼は以下になります。

- 1) 宮城県の石巻チームと気仙沼チームの2チームを同時並行で派遣していただきたい。
- 2) 各チームの編成や大学のローテーションなどは従来のご依頼通り。
- 3) まず仙台の東北大学まで到達していただき、仙台から石巻、仙台から気仙沼への交通の確保は東北大学が行う。
- 4) 各大学で交代要員を仙台に置く場合、仙台での宿泊については東北大学が手配する。

どうぞ柔軟な対応をよろしくお願いいたします。

東北大学

x x x x

仙台より14(10:42)

各位

A まずはじめに・・・

日本産科婦人科学会宮城地方部会員が気仙沼地区と名取地区で各一名、合計2名の会員が津波に飲み込まれて亡くなりました。正式な手続きは追って。

B 気仙沼の状況

気仙沼に行ってきました。

病院のスタッフの多くが被災者でもあり、帰る家がありません。

また、アパートやホテルを借り上げたくても、市街地がほぼ壊滅しておりそれ也没有ありません。

スタッフの多くが家でゆっくり休みたいのに、帰るところがなく、しかたなく病院で寝泊まりして仕事をしています。気仙沼に行かれる先生はその辺のお気遣いもよろしくお願いいたします。

なお、普段は病院に着くと白衣なども出してくれますが、そういったもの也没有ありません。

病院のライフラインは完全に復旧しています。

食事は炭水化物中心ですが病院内である程度、食事を出していただけます。

ただし、ほとんどが塩おにぎりと思ってください。

当然ですが乳製品、野菜、肉や魚介類はほとんど出ません。

東北大学

x x x x